

令和 6 年度第 2 回 札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会 参考資料一式

推進委員会当日は、参考資料 1 ～ 6 として以下のものを配布しています。
なお、参考資料 2 ・ 4 については各ページでダウンロード・閲覧することが
可能ですのでリンク先のみを掲載いたします。

1 令和 6 年度 「環境教育へのクリック募金」 事業報告書(一部)

2 エコライフレポート

・ 夏休みエコライフレポート 2024 の取組結果について

・ 冬休みエコライフレポート 2024

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/ecolifereport/kodomoeco2024.html

3 校外学習用バス貸出利用校の紹介（一部）

4 令和 6 年度環境教育・環境学習ガイド

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/guide.html

5 「令和 6 年度環境教育・子どもワークショップ」の概要

6 「さっぽろこども環境コンテスト 2024」実施報告

【環境教育へのクリック募金制度】

◆ 環境教育へのクリック募金制度

インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、環境活動に先進的に取り組まれている企業の取り組みを紹介。市民がクリックして閲覧することによって、そのクリック数に応じた金額を、協力企業からご寄付いただき、環境教育教材の購入等の資金とさせていただきます。

令和6年度は、令和5年度のクリック実績数に応じて、協力企業7社から合計 168 万円をご寄付いただき、市内小中学校 57 校へ環境教育教材を寄贈いたしました（令和6年 11 月時点）。

また今年度は、「さっぽろこども環境コンテスト」事業に対して資金の一部を活用させていただきました。

◆ 令和5年度協力企業（50音順・敬称略）

- ・株式会社公清企業
- ・札幌第一清掃株式会社
- ・株式会社東部清掃
- ・北清商事株式会社
- ・北海道ガス株式会社
- ・北海道ペットボトルリサイクル株式会社
- ・株式会社マテック札幌支店

◆ 環境教育教材等寄贈校の推移

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
教材寄贈校数	22 校	28 校	31 校	28 校	29 校	26 校	49 校

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
36 校	51 校	44 校	47 校	43 校	36 校	38 校	43 校

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年 11月時点	累計（延べ校数）
41 校	40 校	45 校	57 校	734 校

◆環境教育教材の活用例

【東橋小学校】

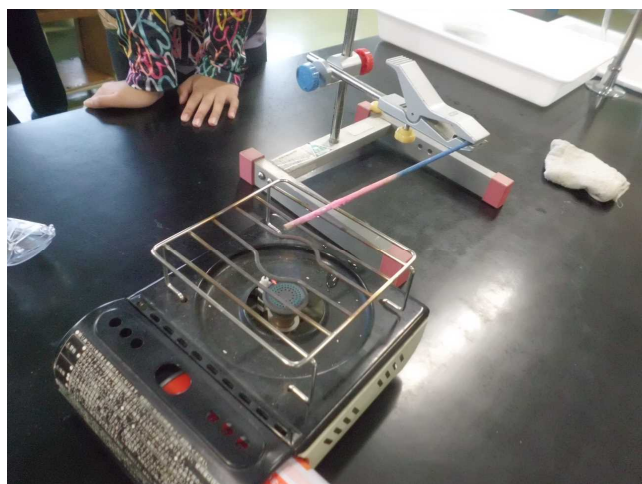
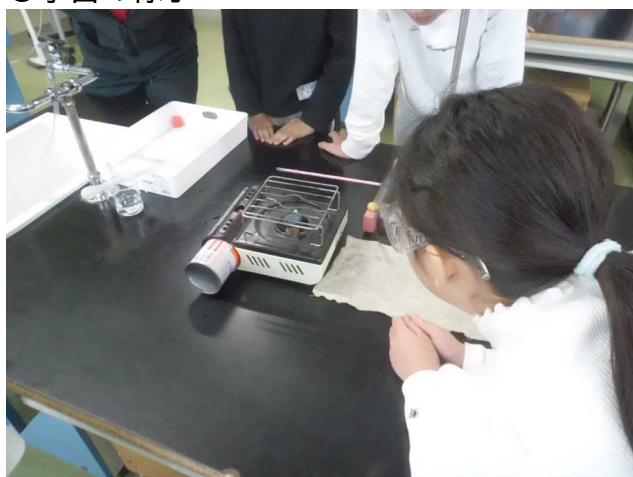
○寄贈教材　：　サーモインク（ペーストタイプ 30g）

○学習の概要と効果（※寄贈校からの「活用報告書」より）

サーモインクを塗り、視覚的に温度変化が分かり、金属の棒や金属の板では、熱源から順に熱が伝わっていくことについて理解を深めることができた。

個体→液体→気体　と温まり方について学習していき、生活の中での温水・暖房などとのつながりを考え、少ないエネルギーで効率よく温める方法や、エネルギーを無駄使いしない温め方などについても考えをつなげることができた。

○学習の様子



【屯田北中学校】

○寄贈教材　：　野菜の苗

○学習の概要と効果（※寄贈校からの「活用報告書」より）

校庭の畑は子どもたちにより管理され、生育や収穫の喜びを共有し、理科・食育・環境教育の視点からの直接体験となった。

授業を通し、自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに応じた連続性のある多様な学びが生活と連動した。

どの子どももそれぞれに心を動かすかけがえのない体験となっていたことが、表情やレポート作文からも確認できた。

「全ての子どもたちの可能性を引き出す特別支援教育に関する専門性の向上、および個別最適な学びと、協働的な学びの実現」ができた。

○学習の様子



【令和6年度バス利用校の紹介（実施報告書から一部抜粋）】

円山動物園の見学(簾舞小学校)



本物の動物を見たり触れたりすることで、動物への興味・関心が高まった。また、小さな動物や赤ちゃんの動物、それを支える親の動物を間近に見ることで、人間にも動物にも大切な命があると感じることができた。

異学年でグループ編成することで、まずは「共に行動する」意識が高まった。実際の活動では、互いに声を掛け合ったり、助け合ったりする思いやりの姿が多く見られた。児童からは、「もっと仲良くなれた。」という声も聞かれた。

発寒清掃工場の見学(西野小学校)



発寒清掃工場では、実際に収集されるごみの量や発電量などについて学んだ。収集、処理だけではなく、発生したエネルギーを施設内や電力会社に売るなどしていることを知り、エネルギーの循環について学ぶことができた。また、可燃ごみの中に、不燃ごみが混じっていることがあるということを展示や職員の方との話から知り、改めて分別の大切さを学んだ。

下水道記念館(屯田西小学校)



教科書や副読本で学習していた内容を実際に見て学ぶことが出来たことに大きな価値があった。特に下水道の学習は、4年児童にとって初めての用語が多く、難しい言葉もあるので、クイズやゲーム、模型等で体感しながら学ぶことで、理解がより深まった。また、生活水や雨水をきれいにするために必要な沈殿池等の施設の広さやにおい等を実感できたことで、水をきれいにするものの大切さや大変さに気づくことができていた。

【令和6年度環境教育・子どもワークショップ】

○目的

これからの未来を担う子どもたちが、どのように自分の考えを伝えたらよいのか、どんな行動をすればよいのかを対話を通じながら学び、自発的な行動につなげるきっかけとなることを目指して開催する。

併せて、環境教育に興味があり、これからワークショップ等のスキルを身につけたい高校生・大学生などの若い世代(ユース)の人材育成も兼ねる。

○概要

本部のメインファシリテーターから各児童会館及びミニ児童会館（以下「児童会館等」という。）の会場にオンラインでプログラムを提供し、各会場では現地ファシリテーターの誘導により子どもたちが対面によりコミュニケーションを取るとともに、オンラインで各会場とも意見交換するなど、オンラインと対面をミックスしたワークショップを行う。

また、児童会館等に通う小学生が中心であることから、低学年でも理解しやすく、多くの子供たちが参加しやすいプログラムとする。

○日時、場所

日 時：第1回 令和7年2月22日（土）10:30～11:30

第2回 令和7年3月8日（土）10:30～11:30

場 所：市内各児童会館 10館（各回5館）

○参加児童会館

※参加する児童会館等の選定は(公財)札幌市青少年女性活動協会と協議し決定（調整中）

○ファシリテーター、グラフィッカーの募集

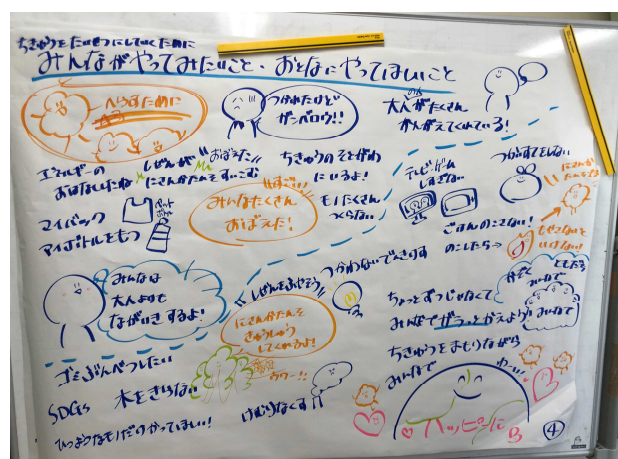
高校生以上 25 歳以下、研修とワークショップ当日全日程に参加できることを条件に、現地ファシリテーター、グラフィッカーを各5名程度募集。

札幌市ホームページ、各区区民センター、若者支援センター等にチラシを配架し周知。

・現地ファシリテーター：本部のメインファシリテーターのプログラムを子どもたちに分かりやすく伝えるとともに、子どもたちの考えを引出し、とりまとめて伝達するなどの役割を担う。

・グラフィッカー：対話の記録をグラフィック・レコーディングの手法で記録する役割を担う。

○令和5年度のワークショップ風景(参考)



【令和6年度さっぽろこども環境コンテスト】

○目的

環境首都を目指す札幌において、子どもたちの活動や取組を発表することで、周囲のこども、さらに大人へも活動の輪を広げることを目的として、開催しています。

○概要

昨年に引き続き、対面での発表会形式により開催。また、小学校などで先生や保護者の引率が難しく、当日現地で発表することができない団体については、希望に応じて、事前に発表の様子を収録した動画を当日公開できるよう対応。発表時間は1団体6分。

○日時、場所

日 時：令和6年12月14日（土）13:00～16:30

場 所：札幌エルプラザ公共4施設3階ホール

○発表団体、発表タイトルと概要（参加団体からの環境活動ノートを基に要約したもの）

◎：最優秀賞 ○：優秀賞 ☆：クリック募金特別賞

<小学校の部>

☆厚別西小学校5年生 SDGs マスターになろう

自分の興味関心に応じて目標を選んで環境の課題を追究。外部講師を招いて、環境の課題について知識を深め、対話を通して、各グループでSDGs行動宣言を作成した。

☆美しが丘小学校6年生 総合的な学習の時間『SDGsって何?』

学級で使い終わった家庭学習ノートをリサイクルするため、全校児童に校内放送やポスターでノートの回収を協力し、SDGsとは何か、なぜノートを集めるのかなども伝えた。

◎栄町小学校 推しの未来プロジェクト

植物の魅力を伝える「推しの木展」の実施から始まり、森について学んだことを伝える学習成果発表会、更には森と共存したまちづくりについての学習へと発展させた。

○北光小学校 地球の未来のために、今の自分たちにできること

学校独自のエコライフレポートの作成・取組を行ったほか、ごみの分別呼びかけや古紙回収の実施、エコ活動を体験するための「エコフェスティバル」を開催した。

<中学校の部>

☆開成中等教育学校 Bio 生物野外観察での学び・研究成果の報告

宮島沼での湿地観察やマガン観察、野幌森林公園での紅葉観察、西岡公園でのコウモリ観察を通じて、自然界における生物の特徴や関係性、環境の大切さ等について学んだ。

◎西野中学校特別支援学級 日常にSDGsの視点を意識する取り組み～ゴミをワクチンにして世界に届ける!～

学校祭でウミガメと絶滅危惧種をテーマとした展示やステージ発表を実施。展示で使用したペットボトルキャップの買取額によってワクチンを寄付する活動に参加した。

○米里中学校科学部 望月寒川の生物調査12年目

これまで望月寒川の生物調査や水温水質調査などを12年間継続して実施。今年度はたも網での調査により10年間一度も発見できなかったイバラトミヨの生息を確認した。

<学校外団体の部>

○旭山自然調査隊 私たちの守るもの 2024

生き物のすみかを守るため、外来植物の駆除や植樹、水辺のヘドロの除去等を行ったほか、生き物調査を通じて地球温暖化を実感しエネルギーについて考える体験を行った。

◎さっぽろあそエコ団 さっぽろ圏での自然体験と豊かな自然を守るためにできること

川の周辺での植物や水生生物の観察、海岸でのビーチコーミングや漂着物の調査とゴミ拾い、円山登山を通じた紅葉の仕組みや火山活動による円山の成り立ちの学習を行った。

☆金山児童会館 ヒラメの栽培漁業

☆札幌市富丘児童会館 漁業体験塾「魚とつくる海のミライ」

※事業には両団体が合同参加。コンテストには各団体よりエントリー

「見る・育てる・食べる」という栽培漁業体験の観点から、ヒラメの稚魚の飼育や放流、海岸のごみ拾い、ヒラメの調理実習を通じて、水産資源や食などに関する大切さを学んだ。

<特別発表>

・札幌藻岩高校 野生動物との共生社会を目指して

地域の人々が人間と野生動物との共生問題について知り、「問題解決のために一人ひとりができる取り組みは何か」を考えるきっかけとなる機会の提供を目指す活動を実施。

○審査員

審査員一覧	所属・役職	氏名
審査員長	北海道大学大学院 文学研究院 教授	大沼 進 様
審査員	北翔大学短期大学部 教授	石澤 優子 様
	市立札幌藻岩高等学校 学校長	野口 浩史 様
	札幌市環境局環境都市推進部長	西村 一郎

○審査項目

評価項目	内容	点数 (22 点満点)
A 継続性・広がり	継続して活動でき、周囲の子どもたちや大人たちへ広がり期待できるか。	5
B 理解・認識	子どもたちが、活動の意義をよく理解しているか。	5
C 効果	活動による環境保全への効果が大きいのか。	3
D 着眼点・独創性	環境保全との繋がりに着目した、オリジナリティのある活動か。	3
E 発表	発表が分かりやすくまとめられ、活動内容が伝えられたか。	3
F 協力・協働	子どもたちが活動目標達成のために学びあったり、協力しあっているか。	3

※F の評価項目は、令和 5 年度第 2 回推進委員会での意見に基づき新たに追加。



当日は引率者や保護者など、多くの方にもコンテストをご観覧いただきました。



環境活動紹介コーナー。今年度は、各出場団体に対する取組への感想や応援メッセージを付箋に書いて貼るコーナーを新たに設けました。